

インターバンクの声（2015年7月2日）

今日、日本時間の午後9時半に米雇用統計の発表があるが、市場の注目は構造改革の是非を問う7月5日のギリシャ国民投票に向かっているようだ。勿論、米雇用統計が予想値から大きく乖離するような発表にでもなれば、それなりに相場の変化もあるだろうが、国民投票後に大きな変動があることを想定すれば、極端に偏ったポジションも積み上げ難いだろう。ギリシャに対する債権団側のトップの一人でもあるデイセルブルーム議長は、「ギリシャ協議をこれ以上続ける根拠はない」「新たな救済要請の検討は尚早」と発言、メルケル首相などとともに国民投票が済むまでの対応は考えていないようだ。こうした中で格付け機関のムーディーズは、ギリシャの格付けを「Caa2」から「Caa3」に引き下げた。実質的な「デフォルト」扱いだが、ムーディーズは2013年秋以前にはギリシャの格付けを今より下の「C」にしていたこともあったようだ。意外な気もするが、皆さんの記憶にも残っているあのリーマン・ブラザーズの破綻前の格付けを「AAA」にしていたことを思えば、神経質になることもないだろう。ニューヨーク勢は雇用統計の発表が済んでしまえば、例によって独立記念日休暇モードに入るそうだ。どうやら市場のリスタートは来週月曜日と考えて良さそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。